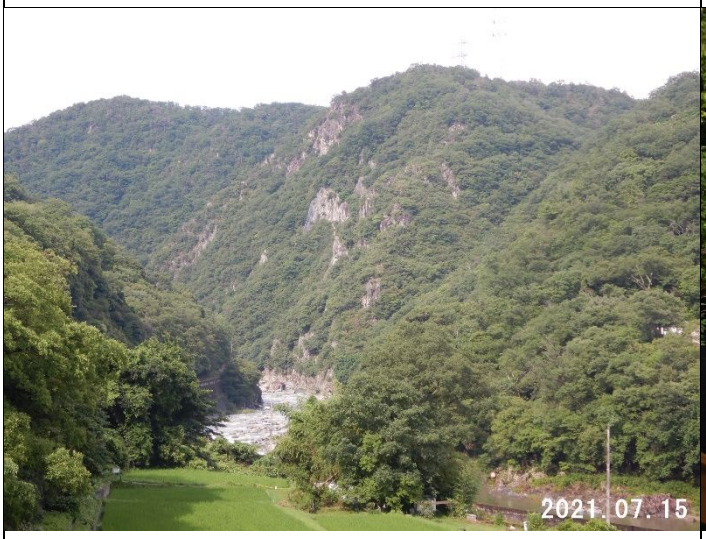
工事中断時期で特に変わりない森興橋

採石場の影響か、少し青み掛かった大多田川の濁流



木之元から見た武庫川峡谷

本流と名塩川の水の色が異なる合流点

多少増水した観音寺川

一雨毎に流れが変わる仁川合流点

梅雨末期の大雨で各地で洪水・土砂災害が発生したが武庫川流域では、７月８～15 日にかけて比較的まとまった降雨があった程度で災害発生もなく梅雨明けを迎えることができた。森興橋から生瀬橋間の河床掘削区間の増水時も水脈筋を変えてしまうほどの規模はなく、掘削直後と殆ど変わらない形状を維持している。

降雨直後の川筋は、川ごとの特徴がみられた。いつもは透き通った綺麗な水が流れる名塩川も出水時には茶色く濁り、合流点では本流と名塩川とは明確に分かり、少し上流に向かって流れてから混ざる様子が分かり合流点における複雑な水の流れ方が観察できる。大多田川では緑ががった濁流が流れており、明らかに花崗岩質の座頭谷由来とは言えず、採石場排水に近い色を示していた。観音寺川の流量はそれほど多くもなく透明で透き通っており明らかに花崗岩質の谷から流れである。この谷筋は土砂崩れ警戒区域指定され、少し上流は土砂崩落警報装置が設置され、一旦警報が鳴りだすと両岸の住民の避難間に合うのだろうか、大きな岩が川まで転がってこないかと心配になる。

仁川合流点も一雨毎に水脈筋を変えるほど急速に変化する。詳細に観察すると、泥状個所と砂状の個所があり、泥状個所には葦が蔓延り、漂流が引っ掛かり見苦しい。砂州は大きな砂場として子供たちに親しまれている。